摂津市議会

文教上下水道常任委員会記録

令和2年12月1日

摂津市議会

目 次

文教上下水道常任委員会

12月1日

会議日時、場所、出席委員、説明のため出席した者、出席した議会事務局 職員、審査案件 -----	1
開会の宣告 -----	2
委員会記録署名委員の指名 -----	2
議案第82号所管分の審査 -----	2
質疑（村上英明委員、弘豊委員、嶋野浩一郎委員）	
議案第96号の審査 -----	8
質疑（村上英明委員、嶋野浩一郎委員）	
議案第83号の審査 -----	12
質疑（嶋野浩一郎委員）	
議案第84号の審査 -----	13
質疑（村上英明委員、嶋野浩一郎委員）	
議案第91号所管分の審査 -----	16
質疑（村上英明委員）	
採決 -----	17
閉会の宣告 -----	17

文教上下水道常任委員会記録

1. 会議日時

令和2年12月1日(火) 午前 9時58分 開会
午前11時18分 閉会

1. 場所

第二委員会室

1. 出席委員

委員長 三好 俊範 副委員長 檜村 一臣 委員 村上 英明
委員 弘 豊 委員 森西 正 委員 嶋野浩一郎

1. 欠席委員

なし

1. 説明のため出席した者

市長 森山 一正 教育長 箸尾谷知也
教育次長兼教育総務部長 北野 人士 同部参事兼生涯学習課長 早川 茂
生涯学習課主幹兼生涯学習まちづくり係長 小堀 裕二
上下水道部長 末永 利彦 同部参事兼水道施設課長 樫本 宏充
料金課長 柳瀬 哲宏 下水道事業課長 竹下 博和

1. 出席した議会事務局職員

事務局次長 溝口 哲也 同局書記 速水 知沙

1. 審査案件(審査順)

議案第82号 令和2年度摂津市一般会計補正予算(第8号)所管分
議案第96号 指定管理者指定の件(摂津市民図書館及び摂津市立鳥飼図書館センター)
議案第83号 令和2年度摂津市水道事業会計補正予算(第2号)
議案第84号 令和2年度摂津市下水道事業会計補正予算(第1号)
議案第91号 摂津市諸収入金に係る督促手数料及び延滞金に関する条例等の一部を
改正する条例制定の件所管分(第5条(摂津市都市計画下水道事業受
益者負担に関する条例の一部改正)に関する部分)

(午前9時58分 開会)

○三好俊範委員長 ただいまから文教上下水道常任委員会を開会いたします。

まず最初に、理事者から挨拶を受けます。
森山市長。

○森山市長 おはようございます。

いよいよ今日から師走に入りました。皆様方には、いろいろとお忙しい中、文教上下水道常任委員会をお持ちいただきまして大変ありがとうございます。そしてまたご苦労さまでございます。

本日は、昨日の本会議で当委員会に付託されました案件についてご審査をいただきますが、何とぞ慎重審査の上、ご可決いただきますようよろしくお願い申し上げます。

一旦退席させていただきます。

○三好俊範委員長 挨拶が終わりました。

本日の委員会記録署名委員は、弘委員を指名いたします。

審査の順序につきましては、お手元に配付しております案のとおり行うことに異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○三好俊範委員長 異議なしと認め、そのように決定します。

暫時休憩いたします。

(午前 9時59分 休憩)

(午前10時 再開)

○三好俊範委員長 再開いたします。

議案第82号所管分の審査を行います。本件については補足説明を省略し、質疑に入ります。

村上委員。

○村上英明委員 おはようございます。

今回の補正予算は、ほぼ人件費絡みということですが、文教上下水道常任委員会においては、債務負担行為についてお尋

ねをさせていただきます。

市民図書館及び鳥飼図書館センターの指定管理事業ということで、令和3年度から令和5年度の3年間ということでございますが、今2期目だと思うんですけども、これまで5年単位で指定管理を行ってきて、今回3年ということでもありますけども、その辺の理由と、どういう認識をしておられるのかということで、1回目お尋ねをさせていただきますというふうに思っております。

1回目以上です。

○三好俊範委員長 答弁を求めます。

早川部参事。

○早川教育総務部参事 市の公共施設の大半の指定管理者が3年後に更新時期を迎えるということで、市全般的に指定管理を行う形態について検討をしているということで、今回、指定期間を令和3年から令和5年までの3年間としております。

以上です。

○三好俊範委員長 村上委員。

○村上英明委員 この指定管理の件については、市全体で行っていくということを見据えながらだと思います。今回、次の案件にもちょっと関連するんですけども、これが新事業者であれば、ちょっと3年は短いのかなというふうな思いも持っております。やっぱりその事業者のノウハウを出していこうと思えば、やっぱり3年、4年ぐらい経って、やっと市民に定着ということになってくるのかなと考えています。

2回目にちょっと細かい話になるんですけども、今の指定管理が平成28年度から平成32年度ということで書いてあるんですが、この5年の中では、5億3,300万円ということでありました。今回それを3年に置き換えると、156万円の増

額ということになっていると思います。これは、人件費なのかなというふうに思うんですが、その辺の確認をちょっと1点だけさせていただきたいというふうに思います。

以上です。

○三好俊範委員長 早川部参事。

○早川教育総務部参事 金額の増でございますが、平成27年度のときの最低賃金と令和2年現在の最低賃金の差が大体時間で100円強ございまして、その分の増が今回増となっております。

それともう一つは、今まで清掃保守点検や施設総合維持管理費等を生涯学習課で予算計上していましたが、今度の予算については、指定管理料の中で予算を計上していくということで増となっております。

以上でございます。

○三好俊範委員長 村上委員。

○村上英明委員 最後ということになるかと思うんですが、先ほど人件費は時間当たり100円ぐらいアップしたというものの、もう一つプラスになる部分もあったということで、トータルが156万円の増になったということであったかというふうに思います。やはり、この指定管理というのは、行政でやるよりも、やっぱり民間活力を導入したほうが良いという基本的な考えだというふうに思っています。これからは市民の目線というか、行政としてはやりづらいけども、民間としてはできるという部分をしっかりと発揮していただけるような形で、これからは極力指定管理に移行できるものは移行するほうが良いという考えを持っておりますので、そういう意味では、またこれから指定管理をしっかりと管理も評価もしなければいけない部分もありますけども、取り組んでいって

ただきたいということで、要望として、私の質問を終わります。

○三好俊範委員長 ほかにございますか。
弘委員。

○弘豊委員 おはようございます。

私のほうからも、先ほど質問があった市民図書館及び鳥飼図書館センター指定管理事業の債務負担行為の補正のところで確認もさせていただきたいというふうに思っております。

これまで、この市民図書館と鳥飼図書館センターの指定管理に関わって、私どもは指定管理に出すよりも、やっぱり公でやるべきじゃないのかというふうなことも申し上げてきた経緯があったというふうに思っております。そういった点で、これまでの5年ずつ合計10年間指定管理に出してきたところの評価と、改めて公の施設の在り方として見直すことというのがなかったのか、そういったことについて、まず1点目お聞きしたいというふうに思います。

それから次に、委託期間が5年から3年に変更されることで、先ほどの答弁の中で、今後3年後の指定管理の一斉更新の時期にそろえていこうというふうなこともおっしゃられていたわけなんですけれども、この図書館の指定管理は、ほかの施設等々に先駆けてやられてきたというふうなことでした。いろんな事業の継続性とか、また中身を見たときに、その3年という期間は短いなというふうなことを村上委員のほうからもおっしゃられています。今回については、非公募で今やられている事業者を更新をしていくというふうなこと、そのことが前提でのこういった債務負担行為になっているんですけれども、そうされた理由についてお聞きしておきたいなとい

うふうに思っております。

それと、最後に限度額の設定の部分なんですけど、この金額についても、維持管理や施設の管理の部分についても含めて、前回とは違った算出方法になっているというふうなことでご説明があったんですけども、今回、指定先を現行の同じところで更新し、限度額としては、この金額というふうなことが提案されているんですけども、実際これまでこの5年間払われてきた指定管理料との差でいうと、結構な額が上乘せされているんじゃないのかなというふうに思うんですけども、そこらあたりの算出の方法ですね。これはあくまで限度額だから、実際の委託金額とは違ってくるのかどうか、このあたりについてもお聞きしておきたいなというふうに思います。

以上、3点お願いします。

○三好俊範委員長 答弁を求めます。

早川部参事。

○早川教育総務部参事 まず1点目、株式会社図書館流通センターについては、毎年度評価をさせていただいております。その中で、年々評価は良いものとなっております。まず一つが市民評価、利用者の評価ですね。こちらの評価も年々良い評価となっているのと、二つ目に、学校教育関係者、学識経験者、社会教育関係者、家庭教育関係者、公募市民で構成されます摂津市市民図書館協議会のほうでもモニタリング評価を毎年行っております。その中でも年々評価が上がっております。本年度につきましては、上から2番目の評価を頂いております。

最後に、市の指定管理の評価、こちらも毎年行っております。こちらについても、今年度の評価につきましてはS評価ということで、一番上の評価がついている状況

でございます。

事業の内容でございますけども、毎年この株式会社図書館流通センターのほうは、市が予定しています摂津市子ども読書活動推進計画、これに基づいて、毎年いろいろな提案を頂いて、業務のほうに取り組んでいただいている状況でございます。

非公募の理由につきましては、公募により選定された指定管理者が当該指定期間中の施設運営について、一定の条件、モニタリング結果により客観的に最適な判断ができる等を満たした場合は非公募でいけるということがございますので、今回、非公募でさせていただいております。

最後に予算額についてでございますけども、算定方法につきましては、先ほど施設等の費用を言いましたけども、これはほぼ同額でございます。今回上がっている金額につきましては、人件費のみでございます。

以上でございます。

○三好俊範委員長 弘委員。

○弘豊委員 2回目でもまたお聞きしたいと思っております。

この間の今の指定管理者の評価については、ホームページなんかでも毎年載せられていて、評価が上がってきているというふうなことは承知もしているんですけども、非公募にするに当たって、とりわけ評価が高いというふうなことも理由とおっしゃられたんですけども、委託期間を5年から3年にする際の理由というのは、3年後の一斉の指定管理の更新にそろえていくというふうなことやったかというふうに思うんですけども、そこらあたりが、どっちが先なのかなみたいなことも不思議に思っていたのもあって、そういった確認をさせていただいたというふうなこ

とでもあります。

ただ、指定管理を導入して、様々な理由があったかというふうに思うんですけれども、民間のいろんなノウハウとかを生かしていく、そういう制度としての理由づけでもあったかと思うんですが、そういったときに公募を行わなくて、ここの1社に随意契約でお願いしていくということが、果たして当初の目的に沿うのかなというふうなことなんかも改めて考えないといけないというふうには思っています。

摂津市においては、今指定管理に指定している業者は年々評価が高まっているというふうなことですが、全国的な規模で展開されているわけで、中には問題もあって、直営に戻しましたといった例もあるんじゃないのかなというふうに思うわけです。そういった点であったり、また実際の委託金額との関係なんかにしても、更新だから、これまでと同じ金額で委託していけるのかどうかというの、今回ちょっと限度額の中身が変わっている関係から、これではちょっと読み取れないというふうなこともありましたので、そこらあたりの点も含めて、私は、公募というふうなこともやっぱりやるべきじゃないのかなというふうに思うのですが、その点について、もう一度お答えいただけたらと思います。

○三好俊範委員長 小堀主幹。

○小堀生涯学習課主幹 ただいまのご質問にお答えさせていただきます。

非公募にした理由ということになるかとは思いますが、やはり先ほども説明させていただきましたように、摂津市市民図書館協議会の評価と、あと本当に一番大事なのは、私どもは市民サービスだと思っております。アンケート調査というのを毎年8月に取らせていただいております。

て、その中も、本当に窓口サービスが良くなった。本が探しやすくなったというご意見を多数頂いております。

前回の公募のときに取らせていただいた調査では、本が探しやすいですかという問いについては、51%が満足、もしくはほぼ満足という状態でしたが、今回、この夏取らせていただいた調査につきましては、本の探しやすさの項目については、約85%の方が満足である、ほぼ満足であるというように回答していただいております。そのことから分かりますように、本当に接遇面において、市民サービスを心がけていただいた、そういった民間活力というところを私どもは非常に評価させていただいていまして、市の評価ということも先ほどありましたように、最高のS評価というふうにさせていただきました。

今回、なぜ公募をしなかったという話になりますけれども、やはり現在、市民の方が非常に満足をされているという状況がありますので、そこであえて公募をして選定するということによって、メリットが新たに生み出されるものかどうかということもありますので、現行の非常に満足されているサービスをやはりこのままきちっと行政としましては、継続させていただいたほうが市民の使い勝手もそうですし、市民の満足度という面についても、より上っていく方向になるんじゃないかと思っております。非公募という形にさせていただいております。

以上です。

○三好俊範委員長 弘委員。

○弘豊委員 今お答えいただいて、市民のサービスの満足度というのも一定あるわけで、それで今回管理をどこか別のところに変えてしまうというふうなことで

て、メリットが損なわれるというふうな、そういうことも危惧されてというふうなことでお答えがあったかと思うんですけれども、そういった点について、私どもはやっぱりこの指定管理者制度で図書館事業を切り替えていくことで、その期間ごとに契約が変わり、継続性が途切れてしまうことが懸念されるということがあったから、やっぱりそれは民間の事業所に任せるのではなくて、公でやるべきなんじゃないのかなというようにことを言ってきた経緯があったというふうに思っております。

今回、非公募でやられるわけなんですけれども、言ってみたら、ある意味ほかのところと競争相手というのがなかなかやっぱり難しいんじゃないのかなというふうな、全国的に見たときにも、本当にこの1社がかなりのシェアを占めていっているというふうなことだというふうに思うんですよ。そうやっていったときに、今は市民の満足度、それから委託金額の設定が市の望んでいるところに折り合うというようになってきていると思うんですけれども、その価格というのが、本当にずっと上がらないとは言い切れないわけです。やっぱり人件費も一定保証してくというふうなことは必要だというふうにも思っていますし、これから経験を積んでいったら、そこでの昇給なんかも、やっぱり職員の方のことを考えると必要だというふうにも思うんです。そうやって、市がやっぱりこの金額では折り合わないとなったときに、事業者が撤退するというようなこと、今の時点では、そういうことは考えられないというふうに思うんですけれども、将来的に考えたときに、本当にこの方向でずっと進んでいっているのかなというふうなこと、そういったことも懸念材料の一つであると

いうふうに思うんです。指定管理者制度とこの図書館事業は、やっぱりなじまないんじゃないかなというふうなことを以前からずっと繰り返し私どもの会派で言っていますけれども、そのこのところ、今回もやっぱり払しょくされるわけではないので、この指定管理についてというふうなことで、なかなか合意できないなというふうに意見として言っておきたいと思えます。

以上です。答弁は結構です。

○三好俊範委員長 ほかにございますか。
嶋野委員。

○嶋野浩一朗委員 債務負担行為の話で、村上委員、弘委員の質問で、内容については理解できたんですけれども、今回指定期間が3年になったと。それを単年度当たりで割り戻していくと、基本的には、人件費のところ増額があるけれども、そんな大きな差はないんだというお話でしたよね。要は、この指定管理者に期待をするというか、こちらからお願いをする業務そのものがそう変わりはないということなのかなというように思うんですよね。果たして、それで指定管理者を導入した意図というのが本当に発揮をされているのかなというところなんですよ。つまり、もともとこれは公で運営をしてきました。それで摂津市全体で公の施設については、指定管理者制度を導入していこうという方向があって、いろんな業種の方に参入をしていただきました。この市民図書館、また鳥飼図書センターにつきましても例外ではなくて、最初は摂津市施設管理公社でしたが、その後、今の事業者が手を挙げていただいて、落札していただき、運営していただいているという経過があるんですよね。そのことによって、一定市民サービスが上がってきたという話がありましたけれども、今回の

指定を機に、3年でありますけれども、さらに市民の方にもっと納得していただけるような、本来図書館の機能をより多くの市民の皆さんに享受していただくような工夫がなければいけないと思っているんですよ。債務負担行為の中で、今回は人件費だけの増額ですと言われると、ちょっと残念だなというふうに思っております。

そのあたりお聞きをしたいのは、今ちょうどコロナ禍ですよ。今求められているのは、直接その場に行って、本を読んで、あるいは借りるということではなくて、その場に行かなくても借りられるようなシステムといったものをどうつくっていくのか。新しい要求といいますか、市民ニーズに答えていくといったことが私は本来出てこなあかんのかなと思っておりますよ、この予算の中にね。そこが今の状況をどうとらえておられるのか、3年間だから今のままでいい、改めて3年後に考えていくのかということなのかもしれませんけれども、ちょっと改めて、債務負担を組んでおられるわけありますから、そこら辺のことについてお聞かせいただきたいと思っております。

○三好俊範委員長 早川部参事。

○早川教育総務部参事 ここには計上されておられませんけども、次回の予算で電子図書館や、子どもの居場所づくり、そういったところを計上する予定でございます。

○三好俊範委員長 北野次長。

○北野教育次長 嶋野委員のご質問にお答えしたいと思います。

おっしゃるように、指定管理の維持というのは、やはり地方自治法、地方財政法に求められている最小の経費で最大の効果、これが目的であります。この指定管理者に変えた後、年間の図書館開催日が、いわゆ

る公でやっていた時期に比べ50日開館日がふえております。それに加えまた30分以上開館時間を現在時間延長していると。過去の決算と比較してみたんですが、一定やっぱり1,000万円程度、財政負担の軽減になっていると。こういうことがこの指定管理の意義と私は思っています。

それで、ご質問に5年から3年、期間の問題のお問いがございました。これは我々にとっては、やはり長期的に継続して、これまでどおり5年でやっていくというのがやっぱりセオリーやと思っておるんですが、しかしながら市のほうは、総合的に他の公共施設、これ組み合わせの問題かなと思うんですけど、一定指定管理の始期をそろえることによって、ある程度スケールメリットであるとか、そのような狙いもあって、一定指定管理の始期をそろえるという行為をしなければいけないということがございましたので、先ほども答弁がございましたが、3年にさせていただいたということでございます。

嶋野委員がご質問の、一つは新たな企画がないのかというお話ですが、これも、この株式会社図書館流通センターの事業内容を見ておりますと、なかなか役所の発想ではできないようないろんな事業、例えばぬいぐるみお泊まり会であるとか様々な企画をしていただいて、早川参事が答弁したように、一定ベクトルが右肩上がりです市民の満足度が上がっているという実態がございます。

そんな中で、先ほど答弁がございましたが、一つは、電子図書、もう一つは、子どもの居場所づくり、これはこれから予算編成上、市長部局といろいろやり取りをしなければなりません、私たちは子どもの読書推進計画に掲げている以上、そのことに

ついて、前向きにとらえていきたいと、そんな気持ちを持っておりますので、株式会社図書館流通センターは、いわゆる電子図書館に非常に長けておられる事業者であるということもありまして、非公募という形になっております。

以上です。

○三好俊範委員長 嶋野委員。

○嶋野浩一郎委員 ちょっと大分踏み込んで指定管理者の話をお聞きしてしまっただけですけども、そこで改めて次の機会に、議案第96号の審査のときに聞きたいなと思っているんですけども、要は私が言いたいのは、今確かに市民の方が満足する事業を展開していただいていると、しかし本来公募することによって、もっと新しいところを提供できる機会だと思うんですよ。例えば、私がかつて議長をさせていただいているときに、近畿市議会議長の会議で和歌山市に行かせていただきました。そしたら、その和歌山市の駅ビルを、改装しておられたんですね。何ができるかということ、図書館ができるという話やったんですよ。そこで図書館を核に、例えば、その図書館にある本を活用して料理教室をすとか、何かいろいろな取り組みをしていただいているんですよ。そこに行ったら、本当に1日を過ごせるような、それも図書館というものをメインにしなが、会話もできるしというような施設を今実際運営されているようです。

そういう話をお聞きしていると、これは公ではなかなか発想できなかったことでしょうし、これはやはり常により良いもの求めていったからこそ、こういう姿にたどり着いたんだらうなというふうに思うんです。

だから、今回3年ということもあって、

3年後に改めて摂津市全体の公共施設の運営について一斉に更新していくということであるので、今回の3年については、債務負担を組んでいただいたというのは理解ができますし、そこは是としていきたいと思っておりますけれども、かといって、今の運営がいい評価だから、もうそのままがいいんだというのは、ちょっと受け身な姿勢じゃないかなと。もっと積極的な姿勢を打ち出すというためにも、私は、本来は公募ということになるべきなんだろうなということを強く思っていますので、これは意見として、今は申し上げておきたいと思えます。

以上です。

○三好俊範委員長 ほかにございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○三好俊範委員長 以上で質疑を終わります。

続きまして、議案第96号の審査を行います。本件につきましても、補足説明は省略し、質疑に入ります。

村上委員。

○村上英明委員 先ほどの債務負担行為の関連という形になってくるかというふうに思うんですが、この議案第96号は、この2期目の団体と同じ団体で、さらに3年やりますというような案件なんですけども、その中で、令和元年度の指定管理者評価結果をちょっと見させていただきました。その中で、先ほども嶋野委員や、弘委員からも、この評価の件でお話もございましたけども、やはりその中でいい部分もあるんですね。例えば、スタッフの70%以上が司書の資格を持っておられるとか、また先ほど議論もございましたけど、子どもの居場所づくり等々も提案されたとかいうこともありますし、また大阪市との相

互利用協定といったことも評価として挙がっているのかなというふうには思う部分もあります。

先ほども少し言いましたけども、この市民図書館と鳥飼図書センター、この二つだけが最高のS評価なんですね。ただその一方で、この指定管理としての評価と、もう一方、市が評価した部分ということで、20の項目があるんですけども、その中の五つが、指定管理評価が例えば3点だったものが市は2点という評価をしたとかいうものがあるんですね。その中で、管理運営上の基本方針と個人情報管理、そして経費節減、それから職員の資質、建物の設備の保守、清掃という、この五つが指定管理評価よりも市が低く評価をしたというように、この令和元年度の評価結果ではなっています。

ということで、この令和元年度の評価をどう見ておられたのかということで、ちょっと1回目お尋ねをさせていただきたいなというふうに思います。

以上です。

○三好俊範委員長 答弁を求めます。

小堀主幹。

○小堀生涯学習課主幹 ただいまの指定管理者評価の件につきまして、お答えさせていただきます。

先ほどご指摘のとおり、この間、平成28年度から指定管理者の評価というのを評価させていただいております。令和元年度につきましては、おっしゃるとおりS評価ということで、最高の評価というふうになっております。中身につきましては、先ほどご指摘を頂いている点でございますが、市の評価のほうが厳しいというようなご指摘だと思いますが、私どもとしましては、先ほどからも質問がございましたよう

に、やはり指定管理者に任しているだけではなくて、私どものほうでも、きちっと図書館の職員、図書館担当の職員を雇用しておりますし、例えば一つ選書という、本を選ぶような司書の一番大事な仕事があるんですけども、そちらにつきましても、指定管理者のほうで、子どもたちなり市民の方に読んでほしい本の選定を一定されます。その中で、私ども市としまして、図書館の担当職員を置いておりますので、きちっとその本が本当に市民にとって利益のある有益な本なのか、そういったことも一定判断をさせていただいております。その中で、最終的にどの本を購入するかということが決まるわけですけども、一例ではございますが、そのように、きちっと私どもも運営がなされているかということについては、当然市の責任やというふうに思っております。

ただ、私も思っていますが、非常に市民サービス、接遇であったりとか、いろいろと項目ございますが、やはり私どもとしては、指定管理者の独自の評価について、一定向こうの意見も聞かせていただきながら、私どもと話をさせていただいて、いろいろと協議させていただいて、最終、私どもとしては、本当にそれが市民目線として、市のほうから見た立場で、それが指定管理者として行えているかどうかという、そういった視点もありますので、若干厳しいような評価になっている部分もあるのかというふうには思っています。

以上です。

○三好俊範委員長 村上委員。

○村上英明委員 評価というのは、やはり行政の目線から見る評価と、自分たちが運営している目線から見る評価と、やっぱり差があるというふうに思うんですね。だか

ら評価というのは、私は基本的には厳しめのほうで見ていくというのが基本目線なんだろうなというふうに思います。そういうちょっと辛めの評価をされつつも、改善の要望していつているというようなこともございます。

例えば、指定管理者からこういうことをやりたい、こういうようにやりたいということで提案があって、予算化につながる。そういう提案をできる力を持っているのが一つは民間の魅力なんだろうなというふうに思うんですね。もし、この株式会社図書館流通センターにおきましては、地域との親睦をやっていこうとかいうこともされていたというふうに、この評価の中では書いてあったというふうに思います。そういう中では、やっぱりあるんですけども、そういう業者の頑張り度合いというのをやっぱり出していくというのが、一つのお金の部分だというふうに思うんですね。そういう中で、私も数年前にちょっと言わせてもらった部分、これは全体的なことなんですけども、例えばソーシャル・インパクト・ボンドという評価制度を持つんですね。これ市の評価よりも団体の評価を、こういうふうに頑張ってくれた。市民サービスがさらに市の想定したものよりもアップしたということであれば、金額を増額して委託していくとか、逆に評価が下がれば、委託料は下げていくとかいうようなことで、業者としても、この努力見合いというのをやっぱりもっと出していくべきなんだろうなということで、私は、それも一つなのかなというふうに思っていますので、そういったことも含めながら、地域とやっぱりコラボしていくというのも大切なことだというふうに思いますので、これから3年間ということでもありますけども、またこう

いう図書の貸し出しもさらにまた努力をしていただいで、子どもたちがさらに図書館に行きやすいとか、行こうとかいう思いがさらに深まっていくような取り組みをまたこの業者との協議の中でやっていただきたいなということで、これは要望としておきたいと思います。

以上です。

○三好俊範委員長 ほかにございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○三好俊範委員長 嶋野委員。

○嶋野浩一朗委員 この今の株式会社図書館流通センターが管理をされたのは、すでに2期されて、今度3期目ということになりますよね。1期終わられて、5年前だと思えますけれども、そのときの評価というのは決して良くなかったんですよ。確かB評価か何かやったかなと思っています。それから、この5年間の運営の中で、S評価までいかれたというのは、物すごい変化だというふうに思っているんです。それは恐らく、先ほどから小堀主幹からも答弁していただいていますけれども、例えば、窓口の対応がよくなったということであったりとか、あるいは探しやすくなったとか、市民の方が自分の望んでいる図書にすんなり出会えるというか、そういうところも大きかったのかなと。それと併せて、先ほど答弁いただきましたけれども、子どもの居場所づくりであったりとか、あるいは電子図書といいますか、そういったところの対応についても、今後はやっていくというところなんだろうと思っているんです。1点お聞かせいただきたいのは、今年の2月頃から、どんどんと新型コロナウイルス感染症の問題が社会的な大きな問題となってきた、実際に緊急事態宣言も出されたわけですよね。この間、ステイホームという

ことで、家の中にいる時間がふえました。当然、家にいるときには、いろいろなものを楽しむわけなんですけれども、そのときに、本に親しむというのが非常に大きな意味があったんだろうと思っています。そのときに、実際に株式会社図書館流通センターが市民図書館と鳥飼図書館センターを運営していただいているなかで、その間に、実際に市民の皆さんが本に親しむことができる環境をどのようにつくっていただいたと評価しているのか、ちょっと改めてその点についてお聞かせいただきたいと思います。

○三好俊範委員長 早川部参事。

○早川教育総務部参事 コロナ禍で利用者の方が外に出られない状況でしたが、摂津市立コミュニティプラザや別府コミュニティセンター、千里丘公民館、そういったところに予約本を取りに行けるようになっております。今回は、一時別府コミュニティセンターのほうで1,000冊以上の予約本がたまっていた状況もございました。市内の施設で本の貸し出しをするように取り組んでおりました。

以上です。

○三好俊範委員長 小堀主幹。

○小堀生涯学習課主幹 ただいまの答弁について、補足説明をさせていただきたいと思えます。

コロナ禍で、4月8日から緊急事態宣言となりました。その時点で、3月から実はコロナ禍で予約本の受け渡しのみということをやっておったんですけれども、緊急事態宣言が出た後、近隣の他市のほうでは、もう予約本の受け渡しも中止するというような状況になりました。しかしながら、私どもは少しでも本を読んでほしいという思いもありますし、株式会社図書館流通

センターのほうも、当然職員も来ている中で、何か職員も一生懸命、当然新型コロナウイルス感染症には気をつけながらなんですけれども、やはり働きがいも含めて、休むという選択も一方ではあるかもしれないですけれども、やはり出てきたいという思いもありまして、職員に何ができるかというふうなことも提案を頂きまして、その中で、やはり本の予約を受け付けようというようなご提案を頂きました。私どもも、ただ予約本を受けるということは、予約だけがストックされていって、当然、次読める機会まで、その時点ではいつになるか分からない、5月の連休明けというような話でしたけれども、それまでの間、予約本のストックがふえていきます。そういった状況で、株式会社図書館流通センターとしては、予約本を毎日インターネットのほうであったりとか、電話のほうで入ってきますので、それを先ほども少しありましたが、コンプラであったりとか、各公民館のほうで受け渡しを、できるだけ図書館に来るのではなくて、近いところでも受け取りができていて、サービスに直結させようということで、まず予約本はやはり止めないでやっっていこうという話になりました。

そういったように、これも先ほどからありました電子図書館というものが当然その時点で非常に必要なのではないかというような話もありましたので、そういった中では、ただ電子図書館自体は、その時点ではできませんでしたので、例えば、青空文庫というようなものもありますし、そういったものを市のホームページで挙げさせていただいたりとか、いろんな何か少しでもコロナ禍の中で今できることはないのかというようなことも、やはり指定管理者のほうと話をした中で、そういったこと

もしてまいりましたので、今後についても、コロナ禍がまだまだしばらくは続くかもしれないので、やはりそういった読書ができる環境というのは、いろんなことを含めて、指定管理者のほうと協議をしながら進めていきたいというふうに思っております。

○三好俊範委員長 嶋野委員。

○嶋野浩一朗委員 よく分かりました。コロナ禍でもいろいろと業者のほうからも提案があって、ご努力もいただいて、こういう評価になったということですよ。それも踏まえて、この3年については、もう一度指定管理をお願いしていくことについては、私も理解をいたしました。

ただ、先ほども申し上げましたけれども、今、市民の皆さんにとっては十分なサービスを提供されているとしても、さらに良いサービスを提供していただく可能性のある業者も実はあるわけですから、ぜひ3年後には、改めて評価もしていただきますけれども、基本はやっぱり競争を働かせながら、より市民の皆さんに満足していただけるサービスを提供していくということが基本だろうというふうに思っておりますので、しっかりと3年後にはそういう方向で考えていただきたいのと、要望として申し上げます。

以上でございます。

○三好俊範委員長 ほかにございますか。
（「なし」と呼ぶ者あり）

○三好俊範委員長 以上で質疑を終わります。

暫時休憩いたします。

（午前10時50分 休憩）

（午前10時51分 再開）

○三好俊範委員長 それでは再開いたします。

次に、議案第83号の審査を行います。
本件については補足説明を省略し、質疑に入ります。

嶋野委員。

○嶋野浩一朗委員 そしたら債務負担行為のところでお聞かせをいただきたいんですけども、施設改修事業で、千里丘送水所受変電設備更新工事というところでは単純に更新なので、今持っている機能について、拡充じゃなくて維持管理というところがメインになってくるんだろうなというふうに思っておりますけれども、改めてその点についてお聞かせをいただきたいなというように思います。

それから、配水管整備事業ということで、新在家二丁目1番地内配水管布設工事をしていただくということでございますけれども、この布設というのは、どういった内容なのか、ちょっとその点についてお聞かせいただきたいと思います。

○三好俊範委員長 答弁を求めます。

榎本部参事。

○榎本上下水道部参事 では、嶋野委員のご質問にお答えさせていただきます。

まず千里丘送水所の受変電設備の更新工事についての内容をお答えさせていただきます。

これは、送水の機能につきましては、電気を受電し変圧してモーターを動かして、ポンプで送水しています。この機械のほうも古くなってきておりますので、これを更新しまして、また設備の信頼性を上げるという目的のためにやらせていただこうと思っております。

次に、配水管整備事業なんですけれども、これは現在、鳥飼送水所のほうから中央送水所のほうまで基幹管路の更新工事を毎年続けておりますけれども、来年度の方で

すが、工事の内容で推進工事がありまして、期間を要することも考えられております。ですので、早めに発注をいたしまして、来年度中にその工事を終える目的のために、早めですが施工させていただきたいという、債務負担行為をかけて工事を行うこととございます。

内容につきましては、500ミリの基幹管路が280メートル、それに合わせまして、その部分に並行する150ミリの管につきましても支障になりますので、そこも280メートル、管の取替更新工事を行いまして、さらに水路の横断の部分で7メートルほどの推進工事を行う、このような内容になっております。

○三好俊範委員長 嶋野委員。

○嶋野浩一朗委員 分かりました。まず、施設の改修のほうなんですけれども、千里丘送水所のいわゆる電気系統を更新していただくということで、より信頼性を高めていただくというところとございますけれども、当然これは自家発電を伴ったもので、もし地震等で、いわゆる停電の状態になったときにも止まることなく提供できるものなのか。特に摂津市の場合は、要するに自然流下が期待できない地形になりますので、この設備というのは、非常にある意味心臓部なんだと思うんですよ。やっぱり常に送っていくということを考えると、そこら辺をしっかりとできているんだろうとっておりますけれども、改めて確認をさせていただきたいなというように思います。

それから、配水管の施設のこととございますけれども、基幹管路についてもしていただくということで、お聞きしていると、なかなか難しい工事になのかなというように思っていますけれども、改めて今回で債

務負担を組まれたということの意味はよく分かりましたんで、そのためにしっかりと進捗管理もしていただきたいなと。ちょっと電気設備のところだけお願いいたします。

○三好俊範委員長 答弁を求めます。

樫本部参事。

○樫本上下水道部参事 2回目の質問にお答えさせていただきます。

千里丘送水所に自家発電機を備えております。これにつきましても、この地域の停電時については、自家発電機を太中送水所のほうから指示をさせて、遠隔的に動かしてやっている形になっております。この指示系統の電気の流れは、この受変電のほうを通りますので、そういう部分も含めまして、設備の信頼性の向上というために行うものでございます。

○三好俊範委員長 ほかにございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○三好俊範委員長 以上で質疑を終わります。

続きまして、議案第84号の審査を行います。

本件につきましても、補足説明を省略し、質疑に入ります。

村上委員。

○村上英明委員 では、2点ばかりお尋ねをさせていただきたいんですが、先ほども議論がございましたけども、債務負担行為の部分ということで、お尋ねをさせていただきたいと思います。この公共下水道管理事業につきましてもそうなんですけども、雑排水管等管理事業ですね。今まで3年で組まれていたかというふうに思います。今回5年ということであつたんですけども、この5年とした理由や、どういう認識でおられるのかということで、1回目、この二つの

項目をお尋ねさせていただきたいなというふうに思います。

以上です。

○三好俊範委員長 答弁を求めます。

竹下課長。

○竹下下水道事業課長 まず、前回というのが、今年度やっている点検になります。それは単年度ではございませんで、平成29年度から複数年契約の債務負担行為を設定させてもらっています。その年数については3か年です。今回5年にさせてもらっておりますのは、やはり3年では短いかなと考えました。というのも、その施設の詳細な状況であったり、設備の癖、あるいは単年度で把握し切れないところについて、経験を積むことによって、請負業者がスキルの向上と効率的な点検体制、あるいは緊急時の体制が整えられると考えるためです。

ただ一方で、競争入札ということで、安価で優位な契約を図ることも重要でございますので、5年が妥当と判断させてもらったところでございます。

以上です。

○三好俊範委員長 村上委員。

○村上英明委員 やはりこういう委託をする事業というのは、やはり公募をやって、新規の業者と契約するというのも一つだというふうに思いますが、その点で、やはりこういう事業というのは、事業者の持っているノウハウというか、そういうものを生かしていくという部分では、やっぱり一つの業者でいくのもいいという側面もあると思います。しかし、やっぱり違う業者でいくというのも、違うノウハウを持っていると思うので、そういう意味では、やはり新規という形も一つだと思います。それと競争入札をしていくという部分では、私

も共感をしておりますので、そういうことで、指名ではなくて、やっぱり公募の競争入札でしていただきたいと思いますというふうに思います。

2回目なんですけど、この雑排水管等管理事業につきまして、今回113万9,000円ということで限度額を設定されておられます。ちょっと間違っていればご指摘を頂きたいんですけども、今の3年間の委託の限度額、3年前の債務負担行為をしたときの限度額が255万1,000円だったと思います。これを3年で割って、今回の5年に計算をした場合、金額が425万2,000円になるというふうに思うんですね。今回が113万9,000円ということで、限度額について乖離があるような認識を持ちましたので、この点、どういう理由なのかということをお尋ねさせていただきたいなというふうに思います。

以上です。

○三好俊範委員長 答弁を求めます。

竹下課長。

○竹下下水道事業課長 村上委員の債務負担の金額の考え方ですね。そこについてのお問いについて、答弁させていただきます。

まず、平成29年度の12月補正予算のときに、先ほども申し上げた債務負担行為を3年設定でさせてもらっております。公共下水道管理事業のポンプ場設備保守点検委託料が356万5,000円、雑排水管等管理事業のポンプ場設備保守点検委託料が255万1,000円です。平成29年度の債務負担行為では、このポンプ場については、4か所で債務負担行為を設定させてもらっております。今回設定は2か所追加の6か所で設計させてもらっております。換算しますと、1か所当たりは若

干減額になる計算になろうかなというふうに思います。

雑排水管等管理事業につきましては、平成11年の鳥飼野々地区農地区の浸水被害で浸水対策用のポンプとして設置された1か所、1か所当たり換算しますと、マイナス62万3,000円、公共下水道管理事業でいきますと、6万3,000円の減額という形になろうかなというふうに思います。

以上でございます。

○三好俊範委員長 村上委員。

○村上英明委員 ちょっともう一回確認させていただきたいんですけども、先ほど、今の3年の委託をしている部分というのが、ポンプが4か所であったと。それを今度6か所ということで、箇所数がふえるということであれば、この管理する保守点検の部分ってふえるんじゃないのかなというふうに私は思うんですね。ただ、限度額がこの前の3年よりも、今回の5年のほうが金額が減っているということで、なぜ減ったのかということが質問だったんですが、そういう意味で、改めて確認も含めて、ご答弁をお願いしたいなというふうに思います。

○三好俊範委員長 竹下課長。

○竹下下水道事業課長 今回、積算している中身についてなんですけれども、積算の参考図書というものを日本下水道協会が出している参考図書に変更させてもらっています。といいますのも、やはりこの3年間を見ても、日本下水道協会が発行している積算のほうが見合った形になっているということで見直しましたら、全体的に減額という形になったものでございます。

以上でございます。

○三好俊範委員長 末永部長。

○末永上下水道部長 竹下課長からの答弁について、補足説明させていただきます。

ここの部分につきまして、3年前、平成29年度の債務負担行為が255万1,000円でした。そのときに、かなり差が出ていたという状況の中で、再度、上下水道部のほうで精査させていただき、竹下課長が答弁したとおり、歩掛りの、3年前の債務負担行為の金額が過大な部分もあったので、今回はこの3年間の検証の中で、新しい歩掛りで考える。確かに競争性もある中で、債務負担行為の金額の設定は、この雑排水管等管理事業だけでいいと、ポンプ場二つで内容では変わらないのですが、5年間という長期契約という部分も含んでの金額の変化は考えられるというところでございます。

以上でございます。

○三好俊範委員長 村上委員。

○村上英明委員 あくまでも限度額なんて、予算上は適切にやっていたよというようなご答弁だったというふうに思いますが、ただ、今の3年とした限度額を設定した際に、歩掛り上では高く設定していたというようなことだったというふうに思います。この金額が、管理するポンプがふえたにもかかわらず、限度額がかなり減っているというのがどうしてだったのかなというふうに思いましたので、ちょっと改めて確認をさせていただきました。

今後、5年で工事をされていくということだと思っているので、その辺はしっかりと積算をしていただけて、適切な工事価格というものをこれから設定して、契約等々を進めていただきたいと思いますということで、要望としておきたいなというふうに思います。

以上です。

○三好俊範委員長 ほかにございますか。
（「なし」と呼ぶ者あり）

○三好俊範委員長 嶋野委員。

○嶋野浩一郎委員 村上委員の質問を受けた形になってしまうんですけども、公共下水道管理事業のほうのポンプ場設備保守点検委託料の箇所数がふえたというところですよ。ちょっとその経緯をお知らせいただけますか。

○三好俊範委員長 答弁を求めます。

竹下課長。

○竹下下水道事業課長 2か所ふえたというのも、汚水の整備で鳥飼八町地域の整備をしたところで、2か所増額になったものでございます。

鳥飼八町地域のあたりで、メイン通りになっている道路があるんですが、水路がほとんど幅を利かせている状況でございます。そのわきに下水道管を入れていくということで、非常に難易度が高い工事でございますので、自然流下できない箇所もございますので、そういったところに汚水ポンプを2か所設置して、処理場の方まで送っていくという形の工事をしたところでございます。

以上です。

○三好俊範委員長 ほかにございますか。
（「なし」と呼ぶ者あり）

○三好俊範委員長 以上で質疑を終わります。

続きまして、議案第91号所管分の審査を行います。

本件につきましては、補足説明を省略し、質疑に入ります。

村上委員。

○村上英明委員 確認も含めてなんですけど、今回、他の所管の部分も含めて、議案

第91号ということで提案をされているということで、この議案の中での第5条ですね。これは、督促の手数料とか延滞金の計算だとかいうことでございますが、改めて改正の内容と、どういう影響があるのかということで、この2点をちょっと確認も含めてお尋ねをさせていただきたいというふうに思います。

以上です。

○三好俊範委員長 答弁を求めます。

竹下課長。

○竹下下水道事業課長 村上委員の今回の改正の内容と、それから影響についてのご質問にお答えいたします。

今回の改正につきましては、ご承知かもしれませんが、令和2年度の税制改正による地方税法の延滞金の改正に伴って、本条例の延滞金の規定を地方税法に準じて改定するものでございます。

改正の主な理由としましては、負担金の納付期限後の半額割合と、その期間及び滞納金、延滞金の割合の特例を追加したものでございます。ただし、根拠法令の都市計画法第75条、受益者負担金の制度の根拠法令でございますけれども、延滞金では14.5%で計算した額を超えない範囲となっておりますので、地方税の14.6%を超えますので、14.5%としたものでございます。

それから影響につきましては、実際延滞金の徴収のほうにつきましては、ここ5年の中では徴収実績はございません。今後、例えば滞納されて、我々からも公共下水道の整備について、受益者負担金の制度について、しっかり説明させてもらった上で、なおご理解いただけない方については、この延滞金というものを当然ながら条例に従い徴収していくということで考えてお

ります。ただ、今回の改正内容につきましては、実際の14.5%の現行条例よりは緩和される形になっているのと、それから、昨今の金融情勢からが特例基準割合が、令和2年で1.6%だったと思います。それで計算すると、14.5%を下回り、14.5%の半分の7.25%も下回りますので、妥当な形になったのではないかなというふうに考えております。

以上でございます。

○三好俊範委員長 村上委員。

○村上英明委員 ありがとうございます。今回、今まで延滞というものがなかったということでありまして、これがどう影響するのかっていうのは、これからのことだということです。そういう意味では、今後もそういう延滞金が出ないように取り組みをお願いしたいなというふうに思いますし、もし忘れていたとかいうときの督促等々も含めて、また適切な形で対応していただきたいということで、要望として質問を終わります。

○三好俊範委員長 ほかにございますか。
(「なし」と呼ぶ者あり)

○三好俊範委員長 以上で質疑を終わります。

暫時休憩いたします。

(午前11時14分 休憩)

(午前11時17分 再開)

○三好俊範委員長 それでは再開いたします。

討論に入ります。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○三好俊範委員長 討論なしと認め、採決いたします。

議案第82号所管分について、可決することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手する者あり)

○三好俊範委員長 賛成多数。よって、本件は可決すべきものと決定いたしました。

議案第83号について、可決することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手する者あり)

○三好俊範委員長 全員賛成。よって、本件は可決すべきものと決定いたしました。

議案第84号について、可決することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手する者あり)

○三好俊範委員長 全員賛成。よって、本件は可決すべきものと決定いたしました。

議案第91号所管分について、可決することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手する者あり)

○三好俊範委員長 全員賛成。よって、本件は可決すべきものと決定いたしました。

議案第96号について、可決することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手する者あり)

○三好俊範委員長 賛成多数。よって、本件は可決すべきものと決定いたしました。

これで、本委員会を閉会いたします。

(午前11時18分 閉会)

委員会条例第29条第1項の規定により署名する。

文教上下水道常任委員長 三好 俊範

文教上下水道常任委員 弘 豊